

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月18日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520655

研究課題名（和文）

東アジア古代社会における音楽文化の比較社会文化史的研究

研究課題名（英文）

Comparative Study on the Music Culture in Ancient Society of East Asia

研究代表者

荻 美津夫（OGI MITSUO）

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：80115013

研究成果の概要（和文）：平成21年度は中国甘粛省の炳靈寺石窟、麦積山石窟等において北魏～北周時代の音楽文化資料の調査研究、韓国百済の都扶余等において音楽文化資料調査を行った。平成22年度は遼寧省瀋陽とその周辺における魏晋墓画像磚・壁画等にあらわされた音楽関係資料の調査研究、続いて吉林省集安において、中国の影響を受けた高句麗古墳群に画かれた壁画資料等による音楽関係資料について調査研究し、多くの資料を蒐集した。また韓国慶州・大邱等において、新羅関係の音楽文化の調査研究を行った。平成23年度は中国新疆ウイグル自治区亀茲のキジル（克孜爾石窟）石窟、クムトラ石窟（庫木吐拉石窟）、およびトルファン（吐魯番）のベゼクリク千仏洞（柏孜克里克千仏洞）・アスターナ古墳群（阿斯塔那古墳群）等の調査を行い、多くの音楽文化関係資料を蒐集した。以上3年間に中国西北部から東北部、朝鮮の旧新羅・百済の存在した地域の調査研究を行い、極めて多くの音楽文化関係資料を蒐集するなどの大きな成果を得た。

研究成果の概要（英文）：The Heisei 21 year: I studied the Heireiji cave (炳靈寺石窟), Bakusekizan cave (麦積山石窟) in China and the ruin of the Baekje (百済). Consequently I exceedingly collected many data on ancient music. The Heisei 22 year: I studied the picture of the tombs in Liaoning province of China and the ruin of the Koguryo (高句麗) in China. Consequently I exceedingly collected many data on ancient music. Moreover I studied the ruin of the Silla (新羅). The Heisei 23 year: I studied the Kizil cave (克孜爾石窟), Kumutora cave (庫木吐拉石窟), in Xinjiang-Uygle province of China and Consequently I exceedingly collected many data on ancient music.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：壁画・陶俑・画像磚・伎楽天・北魏・太楽署

1. 研究開始当初の背景

(1) 古代における日本と朝鮮の文化は、種々の制度とともに、日本、朝鮮が中国のそれを模範とする中で形成されたが、音楽においても例外ではなく、楽制をはじめ、楽器等の大部分も中国からもたらされたものであった。また、日本と朝鮮との関係においては、国家間の交流を通して朝鮮古来の音楽が伝えられるとともに、中国音楽も朝鮮を經由して日本へもたらされたのである。従来の研究では、まず、日本と中国、日本と朝鮮という比較の視点、さらに日本・中国・朝鮮という比較史観に基づく研究が十分でないことがあげられる。また、近年の歴史学においては、図像資料を用いた研究も進められているが、当該分野においては、いまだ十分な調査研究が進められているとはいえない現状である。

(2) 古代日本では5~9世紀にかけて、朝鮮半島(韓半島)から新羅楽、百濟楽、高麗楽が伝えられ、中国からは唐楽がもたらされた。申請者はこれまで、日本については、六国史や古記録(『中右記』等)の文献史料、正倉院御物等の文化財や考古学資料として確認できる楽器資料、「墨絵弾弓」や『年中行事絵巻』等の図像資料を調査研究し、日本では唐から採り入れた律令制度のもとに雅楽寮を置き、百人以上の楽人が音楽を伝習して国家儀礼に奉仕したこと、古代日本の楽制、音楽の当事者である楽人・舞人の地位や出自、楽家の形成過程、多氏、狛氏、大神氏、秦氏等の楽人の系譜やその音楽活動について明らかにした。そして、これらの音楽制度は、7~8世紀には中国の音楽制度の影響を受けていたこと、楽人の中には、朝鮮・中国を出自とする者が多かったこと、後に楽家を形成した中の狛氏、秦氏は朝鮮系渡来人であることなどが確認された。これらの事実に基づき、近年は科学研究費基盤研究C「古代宮廷社会における楽制・楽人等の比較社会文化史的基礎研究」により、中国の音楽制度、音楽文化の研究に取り組んできた。具体的には、魏晋南北朝時代の正史(『魏書』『南史』『北史』等)の文献史料、敦煌・雲崗・龍門等石窟に残されたレリーフや壁画に描かれた図像資料の調査研究を行ってきた。その結果、楽制のありかたにおいては、中国の太楽署という名称に対し日本では雅楽寮と称す等の違い、楽人の地位、身分、出自も異なるものであることが明らかになった。そこで、想定されるのは日本の5~6世紀の楽制、楽人の地位、身分、出自、音楽文化は、新羅、百濟、高句麗等のその影響を受け、採り入れたのではないかということ、また中国の影響を圧倒的に受けたと考えられている7~9世紀においても、統一新羅、あるいは渤海の音楽文化との影響関係が想定がされる。したがって、ま

ず朝鮮や渤海の文献史料、図像資料を調査研究し、楽制、楽器や装束等の史資料を蒐集する。一方、7~9世紀は、中国史上、音楽文化がもっとも隆盛した隋・唐時代であり、正史の礼楽志をはじめ多数の文献史料、隋代の虞弘墓のレリーフや壁画、唐代恭陵哀皇后墓(偃師)出土の陶俑には奏楽状況や楽器等が描かれている。新羅、百濟、高句麗、統一新羅、渤海の調査研究に続いて、隋・唐における楽制、音楽文化に関する調査研究を行い、日本との比較を試みることになる。

2. 研究の目的

(1) 申請者は、これまで「古代宮廷社会における楽制、楽人等と音楽の役割」に関して研究を行ってきた。日本古代の研究に引き続き、近年は古代中国をフィールドにし、その楽制、ことに魏晋南北朝時代の楽人については文献史料を中心に、楽器・装束等の音楽文化については、石窟等の壁画・レリーフや墳墓から出土する陶俑などの図像資料によって検討を進めてきた。

(2) 本研究では、これらをふまえ、まず、日本と中国との間に位置し、文化的にも、中国文化の日本伝来への橋渡しの役割を果たした古代朝鮮の新羅・百濟・高句麗三国と、統一新羅、そして高句麗滅亡後に勃興した渤海における、音楽制度や音楽文化に関して、『三国史記』『三国遺事』『楽学軌範』や中国の正史等による音楽関係の文献史料蒐集と、安岳3号墳、舞踊塚等に描かれた高句麗壁画の奏楽・奏舞描写や楽器・装束、考古学遺物として出土した楽器等を蒐集し、調査研究を進める。次にそこから得られた知見により、中国隋・唐時代の調査を行う。

(3) 中国の実地調査では、新疆ウイグル自治区亀茲のキジル石窟、クムトラ石窟、トルファンのベゼクリク千仏洞・アスターナ古墳群、遼寧省瀋陽とその周辺における魏晋墓画像磚・壁画等にあらわされた音楽関係資料を中心に調査を行う。また、吉林省集安では中国の影響を受けた高句麗古墳群に画かれた壁画資料の蒐集を行う。

(4) それまでの研究成果に基づき、日本、中国、朝鮮間の比較を行い、最終的にはこれらの調査研究成果によって、三地域それぞれの時代の音楽制度・音楽文化等の特色と、古代宮廷社会における音楽の役割を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 中華人民共和国、大韓民国での現地

実地調査により、古代音楽文化関連の図像資料の蒐集を第一とする。具体的には、中国内の漢代～唐代、ことに魏晋南北朝時代を中心とした時期における画像磚・陶俑・壁画等にあらわされた資料の蒐集を行う。韓国においては高句麗壁画や百済・新羅の出土資料にあらわされた三国時代の音楽関連資料などの調査を行う。

(2) あわせて、中国では漢代～唐代、ことに魏晋南北朝時代の正史(『魏書』『南史』『北史』)等、朝鮮では『三国史記』『三国遺事』『楽学軌範』等の文献史料の蒐集を行い、蒐集した図像資料とつきあわせて検討する。

4. 研究成果

(1) 平成 21 年度中国甘肅省の炳靈寺石窟では 169・172・184 窟等の調査を行い、169 窟 6 号龕の光背に残された彩色された伎楽天の貴重な資料の確認ができた。麦積山石窟では、4・78・135 窟等の調査研究を行い天井に描かれた伎楽天を確認した。いずれも北魏～北周時代の音楽文化資料である。

(2) 平成 21 年度韓国百済の都扶余の調査では陵山里寺址出土、国立公州博物館所蔵百済金銅大香炉上に造られた楽器(阮咸・縦笛等)と奏楽者の描写を確認することができた。また、大田月坪洞遺蹟出土の羊耳頭形絃楽器の新たな資料の確認ができた。

(3) 平成 22 年度では、まず中国遼寧省瀋陽とその周辺における魏晋墓画像磚・壁画等にあらわされた若干の音楽関係資料を蒐集した。吉林省集安において、中国の影響を受けた高句麗古墳群に画かれた壁画資料等による音楽関係資料について調査研究し、多くの資料を蒐集した。瀋陽周辺における魏晋墓に画かれた楽器資料は僅かだが、集安の高句麗関係資料では河西地方と共通する特色が見いだせ、瀋陽周辺魏晋墓においても同様な特色が推察される。

(4) 平成 22 年度の韓国慶州・大邱の調査においては、昨年度の扶余等百済関係の調査であったのに引き続いて新羅関係の音楽文化の調査研究を行った。前年度蒐集の百済関係資料、本年度 9 月の集安での高句麗関係資料と比較すると、百済とは共通する傾向がみられるが、高句麗とは異なっていることが窺われた。

(5) 平成 23 年度は中国新疆ウイグル自治区龜茲のキジル石窟、クムトラ石窟等の調査を行い、魏晋南北朝時代や高句麗を中心とした極めて多くの音楽文化関係資料を蒐集する

などの大きな成果を得た。キジル石窟においては 8・14・38・77 窟等の調査で壁画に描かれた伎楽天の奏楽資料の蒐集と研究を行い、描かれている楽器から甘州省の遺蹟とは異なった特色を見いだすことができた。

(6) また、クムトラ石窟では 58・68 窟等の調査を行い、弓形箜篌など敦煌ではほとんどみられなく、キジル石窟同様にインドや西域に結びつく特色を見いだすことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

荻美津夫「河西地域の磚画・壁画にみられる魏晋南北朝時代の楽器-図像資料と文献から音楽の種目を考える-」『西北出土文献研究』2010 年度特刊、査読無、2011、61-90

荻美津夫「古代における音楽-葬礼・神事・宴飲を中心に-」『歴史と地理 日本史の研究』No.635、査読無、2010、33-44

荻美津夫「从魏晋、五胡时代河西地区的砖画、壁画中看到的音乐描写」『高台魏晋墓与河西历史文化国际学术研讨会 论文集』所収、査読無、2010、31-40

荻美津夫「一条朝から白河朝に至までの楽制と王朝文学-『栄花物語』を中心に-」『王朝文学と音楽』(竹林舎)所収、査読無、2009、32-56

荻美津夫「平安時代音楽史研究の課題」『アジア遊学 126 琴の文化史東アジアの音風景』(勉誠出版)所収、査読無、2009、10-19

荻美津夫「雅楽と声明」『越境する雅楽文化』(書肆フローラ)所収、査読無、2009、75-87

[学会発表](計 1 件)

荻美津夫「魏晋・「五胡」時代の河西地域における磚画・壁画にみられる音楽描写」、高台魏晋墓与河西历史文化国际学术研讨会、中華人民共和国甘肅省高台县、2010・8・13

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荻 美津夫 (OGI MITSUO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：80115013

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：